

新年 明けましておめでとうございます

新しい年を迎え、近隣の皆様、そして先生方には、ますますご健勝のことと存じます。

昨年はいろいろとご指導頂き誠にありがとうございました。本年も、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

1月5日(月)10:30より新年互礼会を行いました。互礼会は毎年、診療開始日に職員が集まり、新年を祝い、新たな1年をスタートさせる行事です。

2009年を迎え、また気を引き締めて進んで行きたいと思えます。地域から必要とされる真心のこもったやさしい医療を徹底していきたいと考えます。医療の本質を忘れず原点に返って進んでまいります。そして健康第一で、笑顔で年の暮れを迎えたいと思えます。本年もどうぞ宜しくお願い致します。

【院長挨拶より抜粋】



本年もご指導賜りますよう
よろしく願い申し上げます。

基本方針

人 権を重んじ、患者さんやご家族の「心のふるさと」になれるよう、患者さんの立場に立ったやさしい医療をおこないます。

最 新の医療知識と技術を身につけ、予防から急性期治療・リハビリテーション・在宅支援まで継続的な質の高い医療を提供します。

光 「と風と緑」にあふれた、安全で快適な療養環境を提供します。

地 域の拠点病院として、行政機関や病医院・地域の方々と連携し、保健・医療・福祉に貢献します。

信 頼される医療サービスを提供するために、経営の健全化につとめ、すぐれた医療従事者を育てます。

院内

花
だ
よ
り

冬の花が咲き始めている季節です。
美しい花の季節をお楽しみください。

光風緑

花の植え替えをしました



12月初め、院内花壇がこげ茶の土だけになっている時期がありました。花の少ない冬の景色そのもの、寒々とした眺めでしたが、少しずつ新しい花が植えられ、景色がカラーに戻ってきました。

F棟玄関周りとC棟の裏には、アートインホスピタルの視点でハーブを混ぜて植えています。背の高いハーブを混ぜることで風にそよぐ葉やただよる香りで、風を視覚的に感じるというもの。風や光など自然を感じていただくための工夫です。

どうぞ、美しい庭園をお楽しみください。

外来診察表

外来診察時間 / 9:00 ~ 12:00(受付は11:30まで)

	月	火	水	木	金	土
診 察	2 診	黒田	中井		横田	黒田 横田
	3 診	松島	野村	松島	野村	横井 横井
	5 診	西側	梶本	植田	梶本	西側 植田
	6 診	西村	山田	西村	三秋	相馬
	7 診	白濱	清水	吉田	中井	清水
睡眠外来	黒田	黒田・野村	野村	野村	黒田	黒田
小児精神科外来	横田	横田		横田	横田	横田
専門外来	往診相談 外来	女性外来	口腔心身症 外来	物忘れ 外来		

専門外来(睡眠・小児・往診・女性・物忘れ・口腔)は予約制です
医療機関からの入院・転院のご相談は
地域医療連携室で承ります。
電話072-278-0381 072-281-6615



診療科目

精神科 心療内科 内科

病床数

精神科救急入院病棟99床(B1,C1病棟)
精神科急性期治療病棟60床(E1病棟)
亜急性期病棟120床(B2,C2病棟)
メンタルケア病棟51床(E3病棟)
リハビリ病棟60床(E2病棟)
老年期精神疾患病棟120床(D1,D2病棟)
合併症病棟60床(D3病棟)
精神療養病棟120床(F2,F3病棟) 計690床

看護体制

精神科病棟 15:1 急性期病棟 13:1 スーパー救急 10:1
看護師比率70%以上・看護補助 10:1

関連施設紹介

訪問看護ステーションふれあい
居宅介護支援事業所
ヘルパーステーションはんず
ケアホーム/こもれび・青空・つばさ・そよかぜ
堺市中区八田南之町277 阪南病院内 電話072-278-0381
ケアホームあんずの郷
堺市中区八田北町309 電話072-278-2233
地域生活支援センターゆい
堺市中区深井東町3134 電話072-277-9555



特別講演「山梨県立北病院のダウンサイジングと機能強化」

11月28日(金)17時より多目的ホールにおいて講演会が開催されました。薬品会社ヤンセンファーマ株式会社のご協力で実現した講演ですが、

藤井先生は山梨県立北病院にて約100床のダウンサイズを行う中で病棟機能を集約し、スーパー救急病棟、多飲水症状を大賞とする病棟、児童思春期病棟、アルコール依存治療病棟など、機能特化した医療体制を最前線で引っ張っておられます。全国的にも高名で、ダウンサイズなど経営的な視点も充分加味した病院運営を行う先生ですが、ご本人は温和な印象の穏やかな先生でした。

講演には、約70名が集まり、北病院の現状やこれまでの発展的活動についてお話いただきました。



山梨県立北病院 院長 藤井 康男先生

北病院変革の時期は平成13年、当時病床300で260人台の入院患者、年間の入院件数約400名という態勢に、50名規模のデイケアは数ヶ月待ち、訪問スタッフは1名でなかなか地域の

ニーズに応えられない状況でした。さらに、長期入院患者も多く、保護室が不足し急な入院に耐えられず地域や保険所からの不評も相まって、スタッフ不足、病院運営両面での立て直しが急を要する状態でした。そこで開放病棟(65床)を1つ止め人員を捻出し、山梨県の援護寮設置に協力する形で、その援護寮とデイケア、訪問へ18名のスタッフを振り分けました。そして開放病棟の患者さんをその援護寮など地域へ戻し、ダウンサイズが完了するまでを細かくお話いただきました。

くすりの飲み合わせの例

効き過ぎになる↑

- グレープフルーツジュース
- ↓
- 降圧薬(カルシウム拮抗薬)
- ↑
- アルコール ↔ 睡眠薬・精神安定薬

効きにくくなる↓

- 納豆 ↔ ワルファリン(抗血栓薬)
- ミネラルウォーター ↔ 骨粗鬆症のくすり
- 牛乳、ヨーグルト
- ↑ ↓
- 抗菌薬(ニューキノロン系、テトラサイクリン系)

おくすり教室

お薬の飲み方と注意点

10

グレープフルーツに含まれる渋味成分(フラボノイド)が、薬の分解を抑えてしまいます。すると薬の血中濃度が上昇し薬の効果が強くなりすぎて、ふらつきやめまいを起すことがあります。アルコールと睡眠薬や精神安定薬を一緒に飲むと、どちらも脳の中核の働きを抑制するため、眠気が強くなりすぎるほか、意識が傷害されたり、呼吸が抑制されるなど重大な副作用を招くおそれがあります。納豆には、ビタミンKが含まれているのですが、これは血液を固める作用があり、血液を固まりにくくするワルファリンの働きを阻害するためです。ビタミンKはプロコラーゲンやほうれん草にも含まれますが、納豆だけが問題になるのは、納豆菌は体内でビタミンKを次々と作るからなのです。

一人の医師から複数のくすりを処方されている場合は、副作用や相互作用を起さないよう薬を処方してくれていきますから心配ありません。しかし複数の病院にかかり、別々にもらった「薬の飲み合わせ」による副作用や事故があります。くすりには、それぞれの病気に有効であっても、2種以上を一緒に使うと逆効果になるものが少なくありません。違う病院から全く同じ成分のくすりをもらって効き目が強くなりすぎたり、くすりがお互いの効き目を消し合っ、全く効果がなくなってしまうこともあるのです。

もしも、複数の病院にかかるときには、今、自分が飲んでいるくすりの内容を、新しい病院の医師に伝える必要があります。もちろん、薬局でくすりを購入する場合も、飲んでいくくすりの内容を伝えましょう。

禁煙講演会

職員の数地内禁煙に先立って、12月2日(火)講演会を開催致しました。

「知ってびっくりタバコの真実」 ～伝えられないタバコ問題と医療従事者の使命～

園クリニック院長 園はじめ先生

12月2日の禁煙講演会でお話いただいた園先生は、豊中市で禁煙外来を開設されているDr.です。精神科疾患合併ニコチン依存症患者の治療にも力を入れています。タバコを吸うと体はこんなに蝕まれ..(写真右)こんな現実を突きつけられると喫煙者もびびります。クリニック待合には、この絵はもちろん「SMOKING KILLS」と大きく写真警告された世界のタバコなど、待合にいただけでタバコが怖くなる啓発資料が展示されています。そんな禁煙外来を展開される園先生の、タバコ撲滅運動は筋金入り。活動の一部をユーモアたっぷりにお話いただきました。お話はタバコに関する世界のコマーシャルから始まり、嗜好品ならぬ死向品であるタバコの心と体への悪影響をリアルに、でもとても分かりやすくお話いただきました。そして、喫煙者の60%はタバコで早死にすると断言されました。



また「精神科における喫煙」として、タバコは過食、肥満、アルコールなど、とあいまって、癌、脳卒中、心筋梗塞などの合併症につながり、多重の苦しみを患者さんに負わせることになることを指摘されました。また精神科の病院の喫煙容認環境が、患者さんをニコチン依存に追い込んでいたことを指摘されました。タバコは患者さんの残された楽しみや精神安定剤といった意見が当院でも聞かれます。しかし、喫煙はニコチン切れによる精神症状の悪化をもたらす、うつ病や自殺にも関係し、精神安定剤どころか、精神症状を悪化されることが明らかになっています。先生が以前勤めていた精神科病院の調査では、喫煙者の20%が病院でタバコを覚え、非喫煙者の8割以上が受動喫煙の苦情を病院に言えずに我慢していたことがわかりました。また喫煙者の8割近くが禁煙したいと望んでおり、実際禁煙指導により、困難はあれど、意外と禁煙できることもわかりました。生活保護を受ける患者さんの収入の1～2割がタバコ代に消え、強迫的喫煙が就職の支障ともなり、経済的にも社会復帰の面でもますます患者さんを追い詰めているという指摘もありました。

「精神科の患者さんとタバコは切り離せない」と勘違いしている精神科のタバコ容認環境が医原性難治性ニコチン依存症をもたらしていた過去に決別し、精神科こそ、依存症治療の専門科として禁煙環境を整備し、ニコチン依存症の治療にとりくんで欲しいと力説されました。

あさかホスピタルより見学ご来院

「地域の街並みを病院の中に作りたい！」とてもインパクトのある言葉だと思いませんか? 12月12日(金)福島県のあさかホスピタルより、法人部長はじめ5名の方が見学に来院されました。前述の言葉は、当日あさかホスピタルの運営についてご講演いただいた際のお言葉です。あさかホスピタルは、当院と同じ約50年の歴史を持つ精神科主体の病院です。同じくメンタルケアや子供の心の外来、脳ドックを持ち、画期的な取り組みとして、入院患者を100名退院させ、関連のグループホームなど地域で生活をする環境を病院

職員の数地内禁煙

当院では、本年1月1日より職員の敷地内禁煙を実施しております。健康を守るべき病院という立場上、完全禁煙に向け検討を続けてまいりました。職員の建物内禁煙から、敷地内喫煙場所を減少し、段階的に職員の禁煙を進めました。また、職員だけでなく、病院全体の禁煙も計画的に進めたいと考えております。そして、きれいな空気、美しい環境を目指します。どうぞご協力くださいますようお願い申し上げます。



主体で作り上げてきた実績を持っておられます。グループホームの次は障害者雇用と治療という観点だけではなく、援助、協働といった視点で医療、福祉を活発に推し進めています。2000年には建設した建物が建築大賞を受賞するなど、人が生きる環境を大切に地域と対話し共に歩んでおられるとのこと。基本理念には、「愛情」「和」「奉仕」と共に、「進歩」をきっかけ、与えてもらうのではなく、自分たちで考えていくことが、次の進化に繋がるとのお話にて、職員一同、よい刺激をいただいた有意義な一日でした。